



おきぎん 経済研究所

NEWS RELEASE

2014年9月25日

第57回おきぎん企業動向調査 (2014年7~9月期) 調査結果

現場主義とお客様からの信頼

※お気づきの点、不明な点などがございましたら、下記までご連絡ください。

(株)おきぎん経済研究所

TEL:098-869-8711 FAX:098-869-2200

第57回おきぎん企業動向調査(2014年7～9月期)調査結果

～県内(地域・業種別)の経営環境と業況感(2014年10～12月期見通し)～

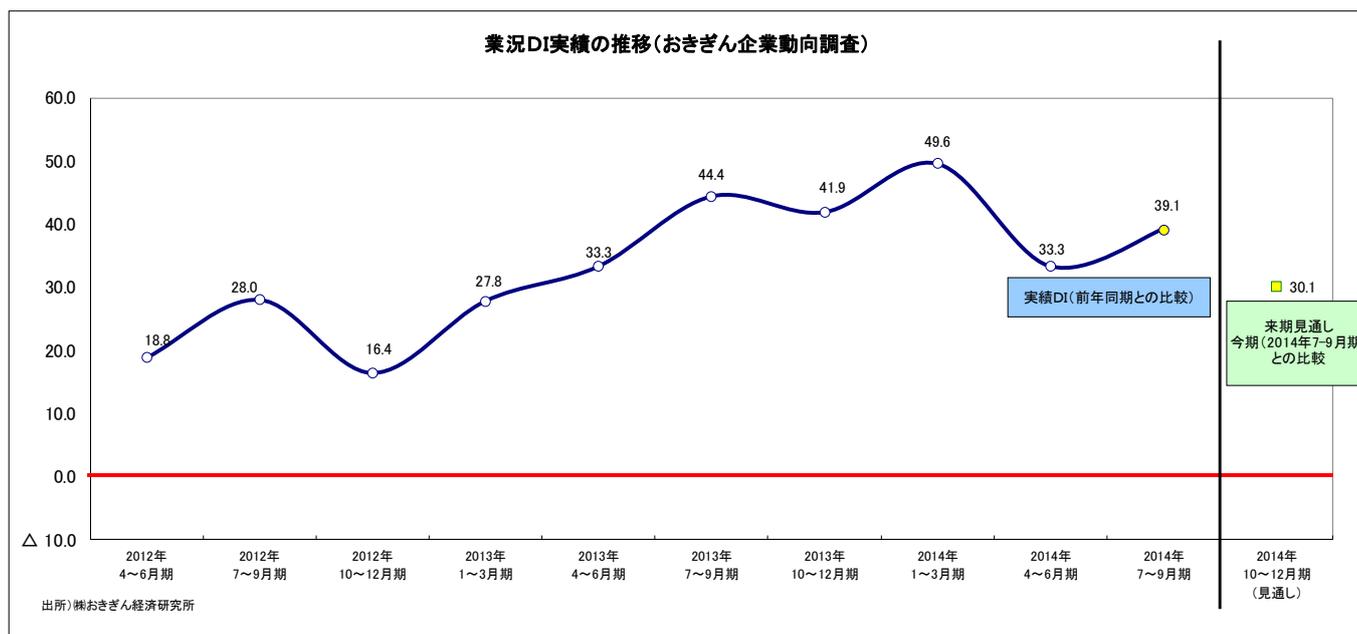
I. はじめに

1. 調査の結果

業況DIの推移

期間・結果	2013年		2014年			
	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期(見通し)
項目	前年同期比DI	前年同期比DI	前年同期比DI	前年同期比DI	前年同期比DI	前期比DI
全業種計	44.4	41.9	49.6	33.3	39.1	30.1
製造業	40.0	43.5	52.6	26.5	26.7	40.0
土木業	41.7	30.0	45.0	34.8	60.0	48.0
建築業	50.0	61.6	67.4	46.7	35.1	38.3
卸売業	39.8	38.1	35.3	30.2	25.0	19.4
小売業	38.5	27.3	41.7	13.8	30.3	28.9
情報通信サービス業	36.4	22.2	60.0	37.5	40.0	40.0
医療・福祉	36.7	31.0	22.2	29.2	48.4	25.8
その他サービス業(宿泊・飲食等)	61.4	42.2	53.8	33.9	58.5	17.0
その他(不動産・運輸等)	46.9	48.6	55.1	43.5	48.3	29.9

- ・2014年7～9月期の業況DIは39.1(前年同期比)となりました。
- ・全業種(【製造業】、【土木業】、【建築業】、【卸売業】、【小売業】、【情報通信サービス業】、【医療・福祉】、【その他サービス業】、【その他】)で「業況改善の動き」がみられます。
- ・2014年10～12月期の業況見通しDIは30.1(2014年7～9月期比)となり全業種で「業況改善の動き」が見込まれます。



2. **調査の概要**: 本調査は各企業の業況や売上高、売上・仕入単価、収益面等の経営状況項目について、主に経営者の判断(当期実績、次期見通し)をDI(景気動向指数)として取りまとめたものです。

- a. 調査時期: 2014年8月下旬～9月上旬
 b. 調査対象: 県内企業 488社 回答
 c. 調査内容: ①業況 ②売上高 ③売上単価 ④仕入単価 ⑤採算 ⑥引き合い(問合せ等)
 ⑦雇用 ⑧設備・その他投資需要(第51回調査までの「IT関連投資」と「その他の投資」を統合)

—おきぎんDIについて—

主に企業経営者の業況などに関する実績判断や見通しを「好転・上昇・増加」、「不変(変わらない)」、「悪化・低下・減少」のいずれかでお答えいただき、それらの割合を表したものです(本レポートでは方向性を示すため「悪化・低下・減少」はマイナス表示を用いています)。

①「好転・上昇・増加」+「不変(変わらない)」+「悪化・低下・減少」=100%

②DI=「好転・上昇・増加」の割合(%)－「悪化・低下・減少」の割合(%)

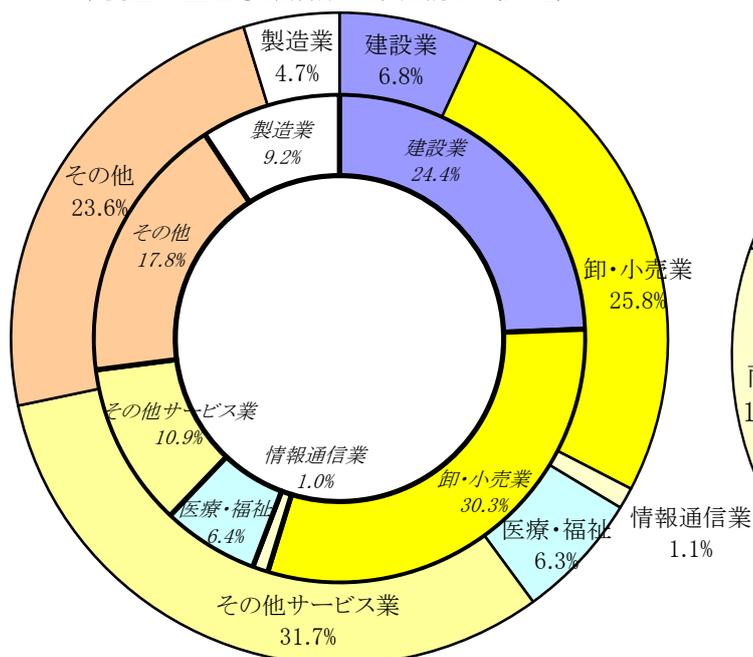
上記①、②から、DIがプラスなら景気が良い(または上昇見込み)、マイナスなら悪い(または下降見込み)といった具合にご覧いただけます。

3. 調査対象企業の業種・所在地構成

・本調査を県内事業所データ(2012年経済センサス基礎調査)と比較すると、【建設業(本調査では土木業・建築業)】、【卸・小売業】、【製造業】はサンプリング数が多く、【その他サービス業(宿泊、飲食等)】、【その他(不動産、運輸等)】はサンプリング数が少なくなっています。

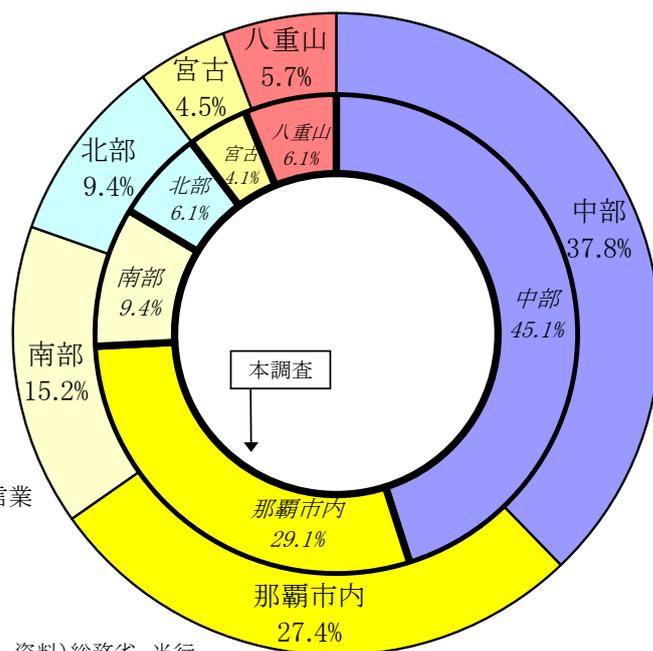
・所在地については中部・那覇市内で7割を超えるシェアとなっています。

県内の産業別事業所数の構成(外円)、
本調査の回答事業所数の業種構成(内円)



資料) 総務省、当行

県内の事業所所在地構成(外円)、
本調査の事業所所在地構成(内円)



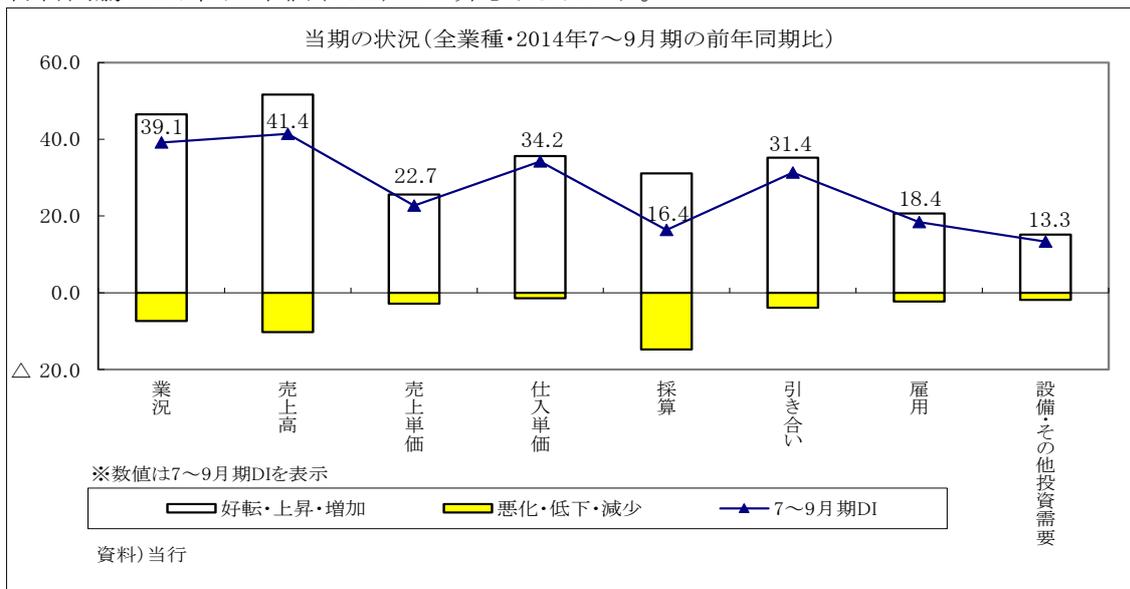
資料) 総務省、当行

II. 調査結果(1) ～おきぎん DI: 県内の経営環境と業況感について～

1. 全業種

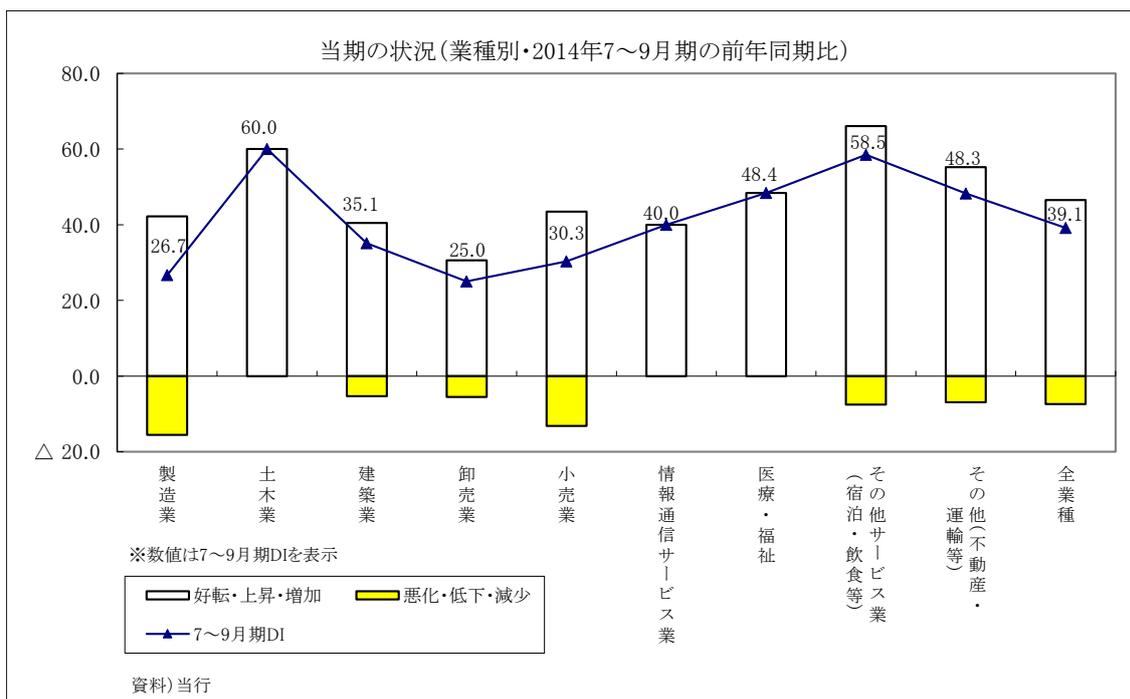
a. ①当期の状況(項目別・2014年7～9月期の前年同期比)

当期の業況は 39.1 となり、全体としては**業況改善の動き**がみられます。前年同期比では「公共工事の受注増加」や「全般的な県内景況の拡大」の影響などを反映し、業況改善の動きとなりました。項目別では売上高(41.4)や引き合い(31.4)が増加しており、全ての項目で改善しています。一方、原材料高騰により仕入単価(34.2)の上昇もみられます。



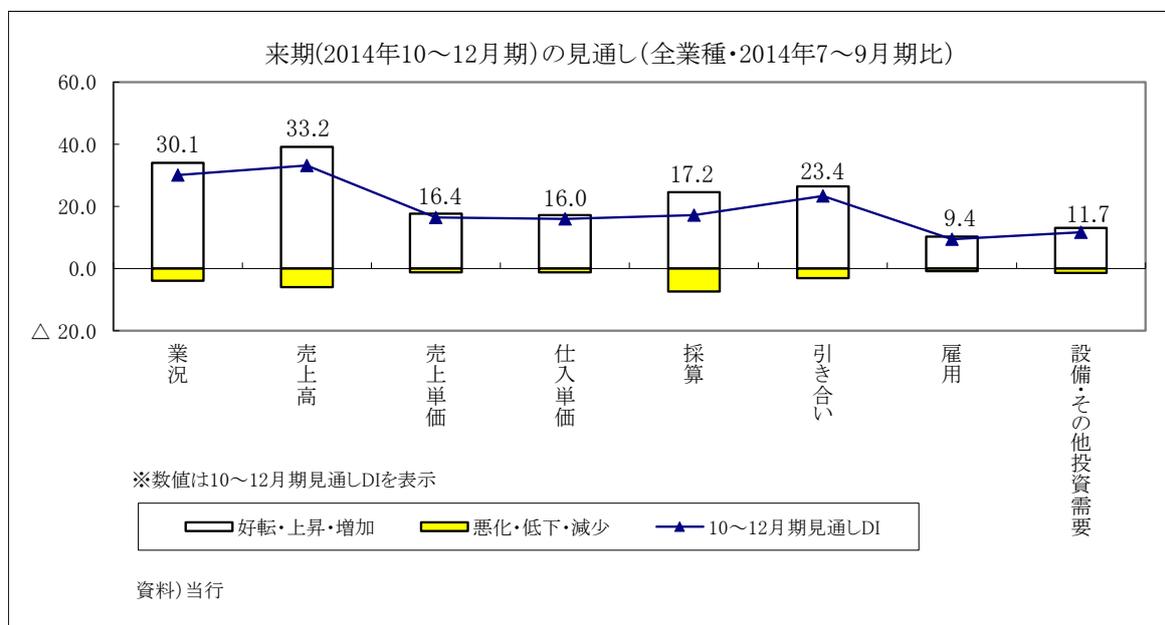
a. ②当期の状況(業種別・2014年7～9月期の前年同期比)

当期の状況を業種別で見ると、全ての業種において**業況改善の動き**となりました。今期は「公共工事の受注増加」「観光のトップシーズンによる観光需要」の影響などにより【土木業】(60.0)、【その他サービス業】(58.5)などが大幅に改善しています。



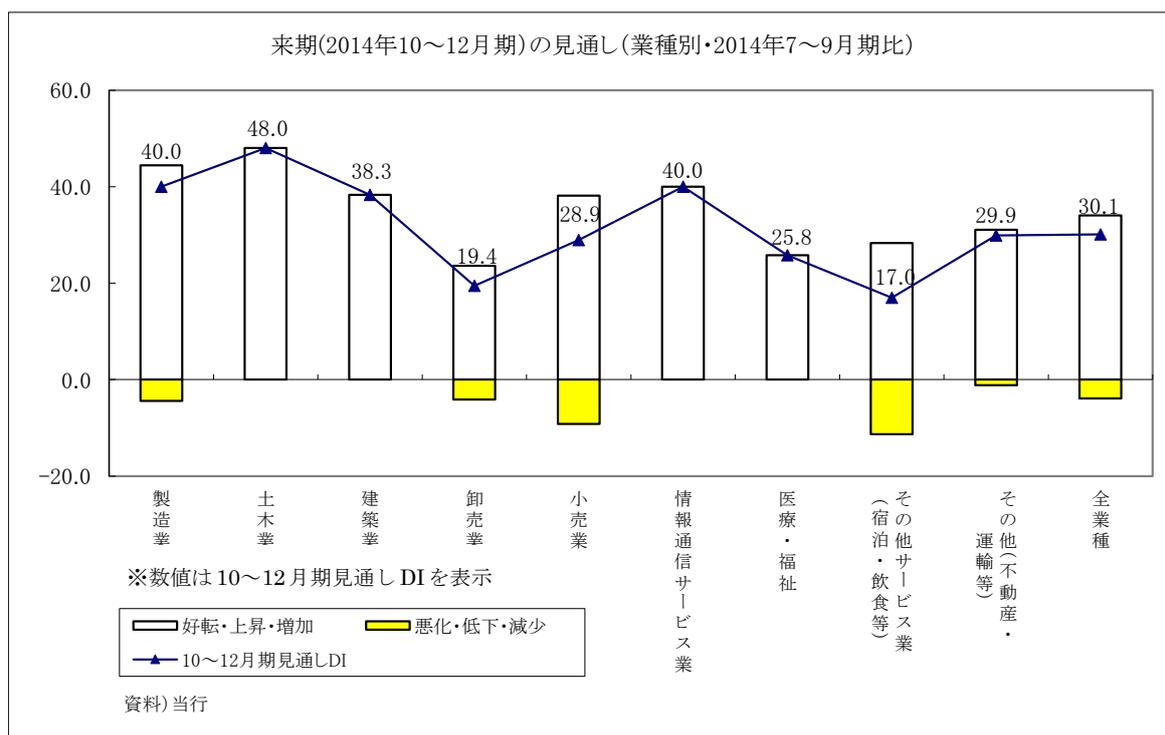
b.①来期の見通し(項目別・2014年10～12月期の2014年7～9月期比)

来期(2014年10～12月期)の見通し業況DIは30.1となり、**業況改善の動き**が見込まれます。項目別では、引き続き公共工事の受注増加などにより堅調に推移することが予想されます。一方、建設資材高騰や人件費の上昇による採算の悪化を懸念する声もみられます。



b.②来期の見通し(業種別・2014年10～12月期の2014年7～9月期比)

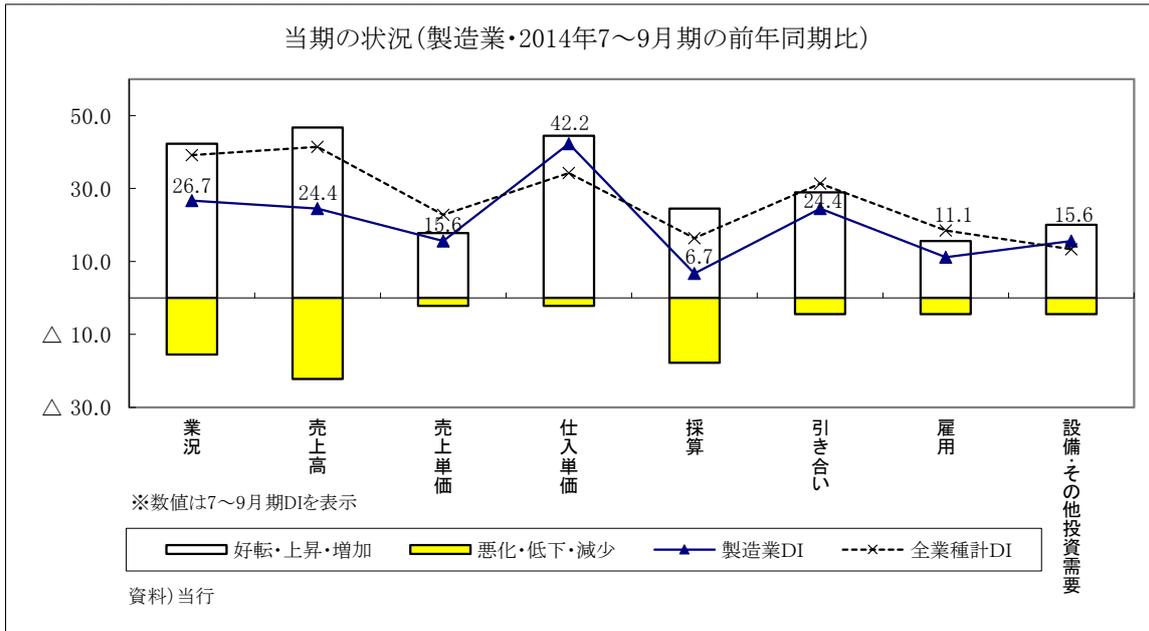
来期(2014年10～12月期)の見通しDIを業種別でみると、全ての業種において**業況改善の動き**が期待されます。【土木業】(48.0)、【情報通信サービス業】(40.0)では、公共工事の受注増加や求人募集を中心とした広告需要の影響により、全体DI(30.1)を上回る業況の強さが見込まれます。



2. 製造業

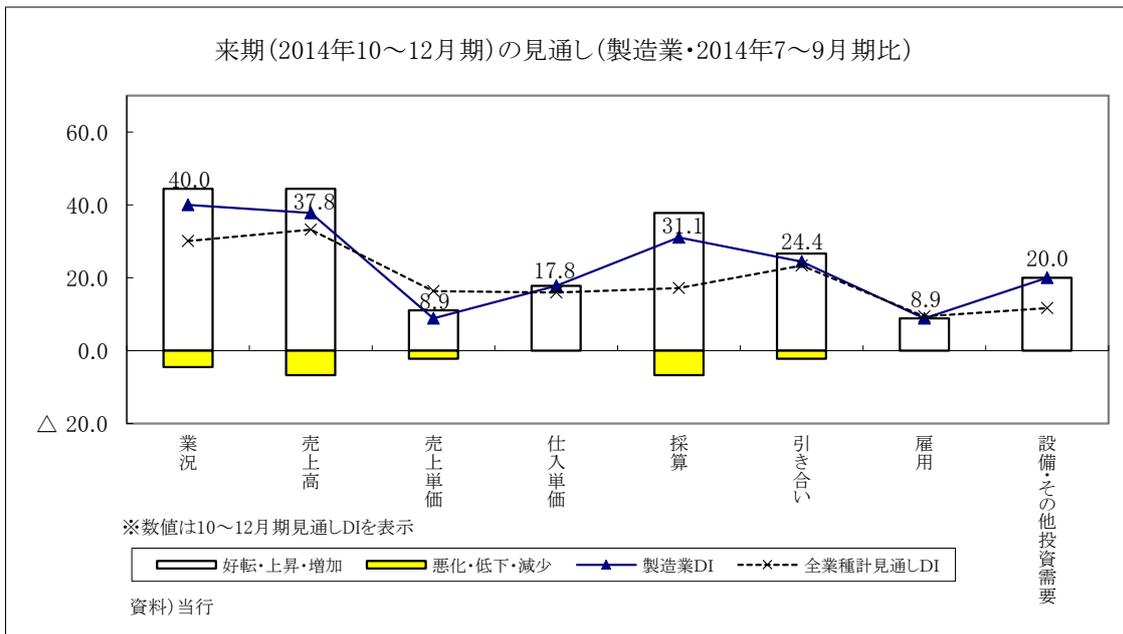
a. 当期の状況 (2014年7～9月期の前年同期比)

【製造業】DIは26.7となり、全体としては業況改善の動きがみられます。項目別では、食品製造業、琉球ガラス製造業、菓子製造業において観光のトップシーズンによる観光需要や新商品開発、県内外への販路拡大などにより売上高や引き合いの増加がみられます。また、生コン製造業は公共工事の受注増加で売上高が増加しており、採算も改善しています。一方、原材料高騰による仕入単価の上昇を懸念する事業者もみられます。



b. 来期の見通し (2014年10～12月期の2014年7～9月期比)

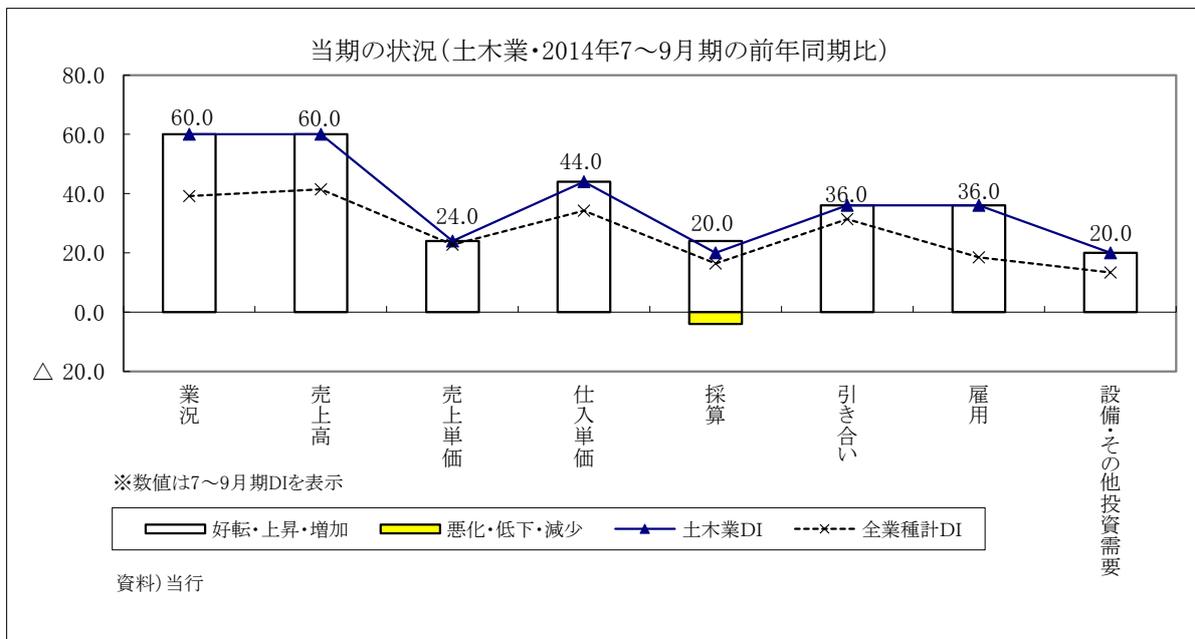
来期の見通し【製造業】DIは40.0となり、全体としては業況改善の動きがみられます。生コン製造業では引き続き公共工事の受注増加により売上高や引き合いの増加が見込まれます。また、泡盛製造業では年末イベント(忘年会など)やキャンペーン企画などにより売上高の増加が見込まれます。一部では経費削減や売上単価の見直しなどにより採算の改善を見込む事業者もみられます。



3. 土木業

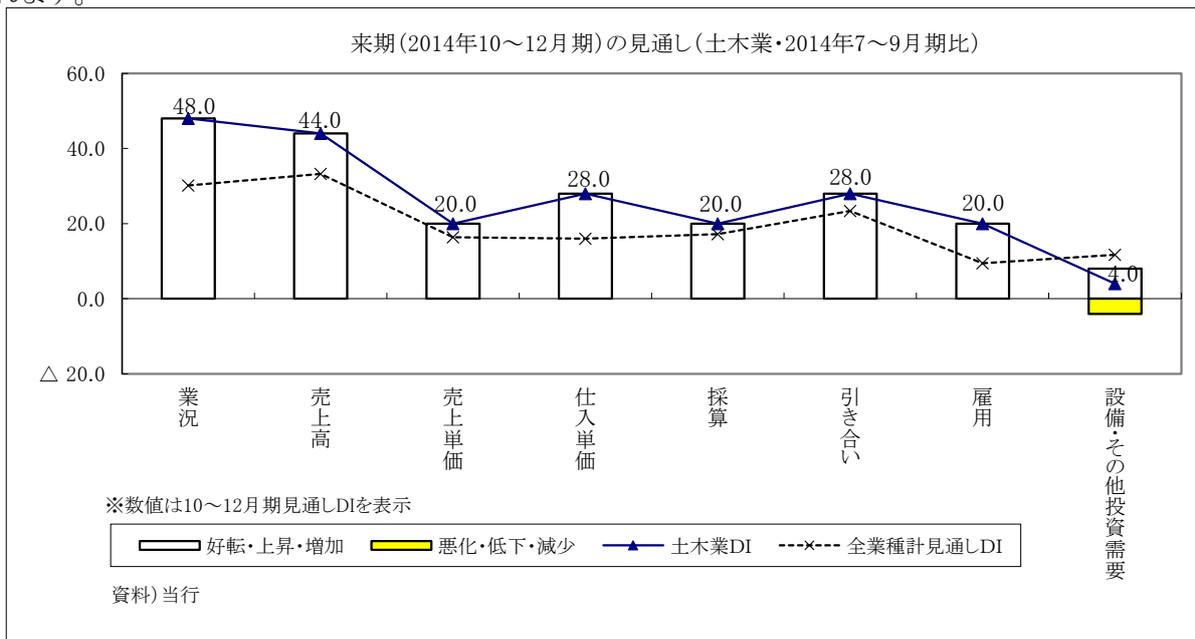
a. 当期の状況 (2014年7～9月期の前年同期比)

【土木業】DIは60.0となり、全体としては**業況改善の動き**がみられます。那覇空港第2滑走路や北部地区における公共工事の受注増加などから、売上高や引き合いが増加しています。一方、一部では仕入単価の上昇による採算の悪化や人材不足を懸念している事業者もみられます。



b. 来期の見通し (2014年10～12月期の2014年7～9月期比)

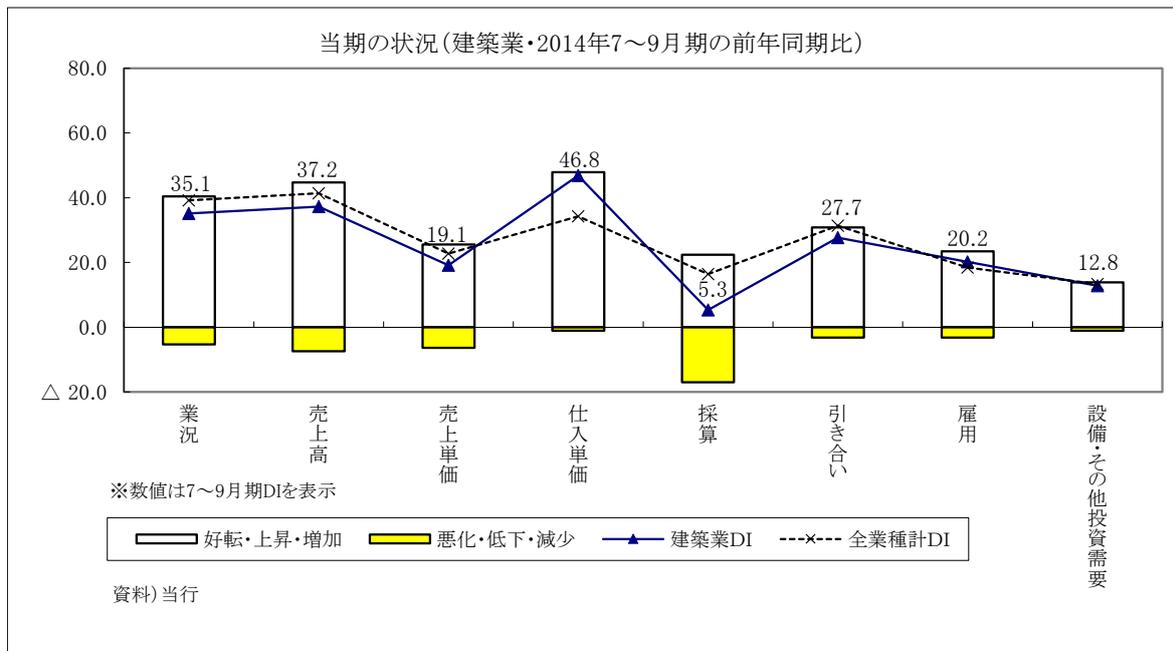
来期の見通し【土木業】DIは48.0となり、全体としては**業況改善の動き**がみられます。引き続き、年末にかけて公共工事の受注増加を見込む事業者がみられ、売上高や引き合いの増加が期待されます。



4. 建築業

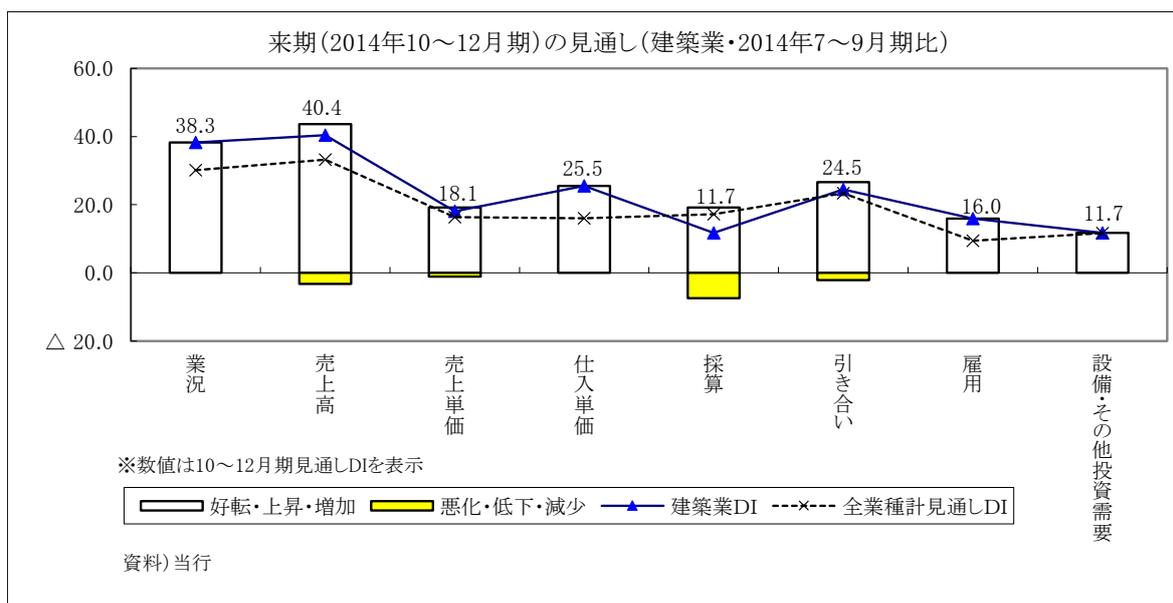
a. 当期の状況 (2014年7～9月期の前年同期比)

【建築業】DIは35.1となり、全体としては業況改善の動きがみられます。公共・民間工事の受注増加により、売上高や引き合いが増加しています。一方で、建設資材高騰による仕入単価の上昇や、人材不足による労務費の高騰などから採算の悪化を懸念している事業者もみられます。



b. 来期の見通し (2014年10～12月期の2014年7～9月期比)

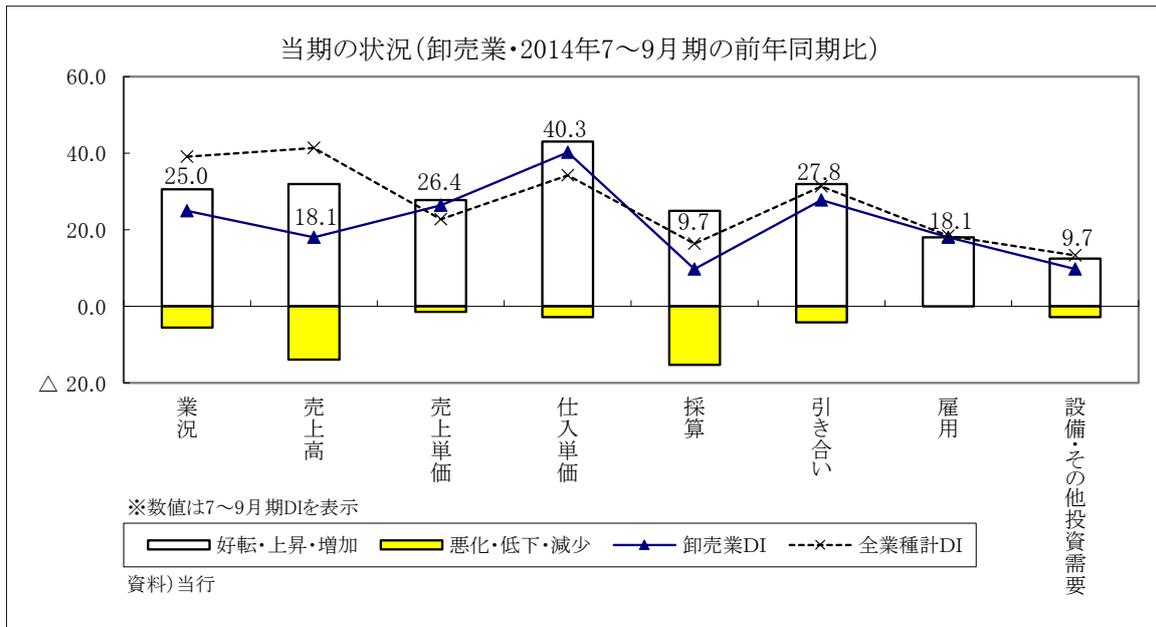
来期の見通し【建築業】DIは38.3となり、全体としては業況改善の動きがみられます。引き続き、公共・民間工事の受注増加などが見込まれ、売上高や引き合いの増加が期待されます。また、建設資材や労務費の高騰に対して、適切な人員配置による工程管理の徹底や、仕入単価の交渉などにより採算の改善を図るといった動きもみられます。



5. 卸売業

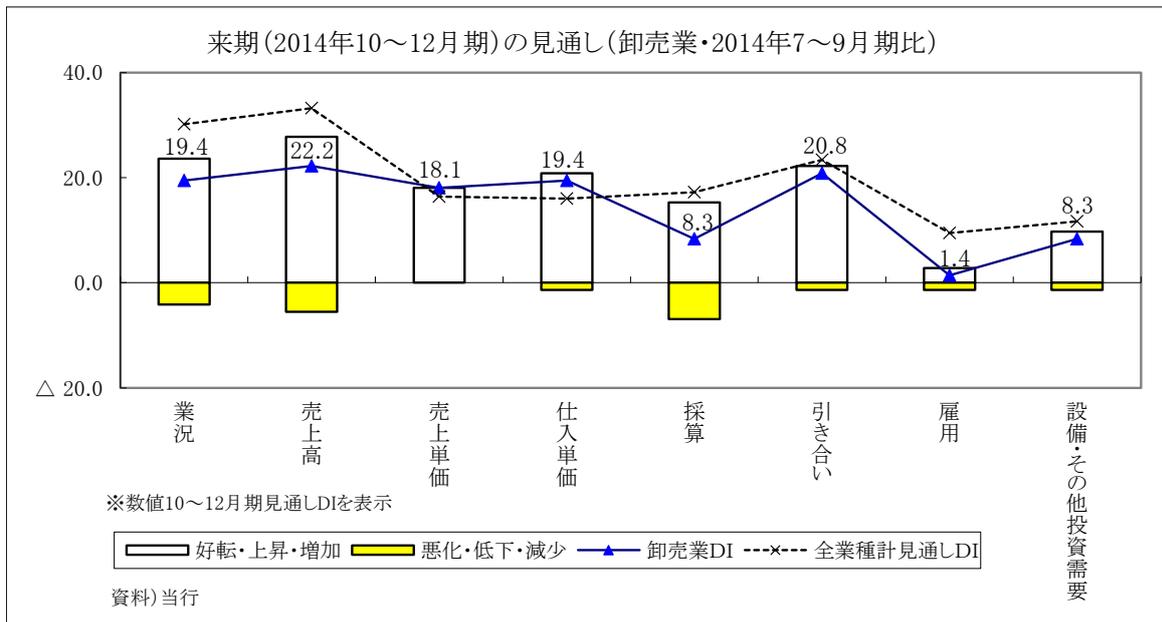
a. 当期の状況 (2014年7～9月期の前年同期比)

【卸売業】DIは25.0となり、全体としては**業況改善の動き**がみられます。建設資材関連では公共・民間工事の受注増加により、売上高や引き合いが増加しています。また、食料品・観光土産品関連も観光需要で売上高が増加しています。一方で、一部では円安の影響による仕入単価の上昇や、採算の悪化を懸念する事業者もみられます。



b. 来期の見通し (2014年10～12月期の2014年7～9月期比)

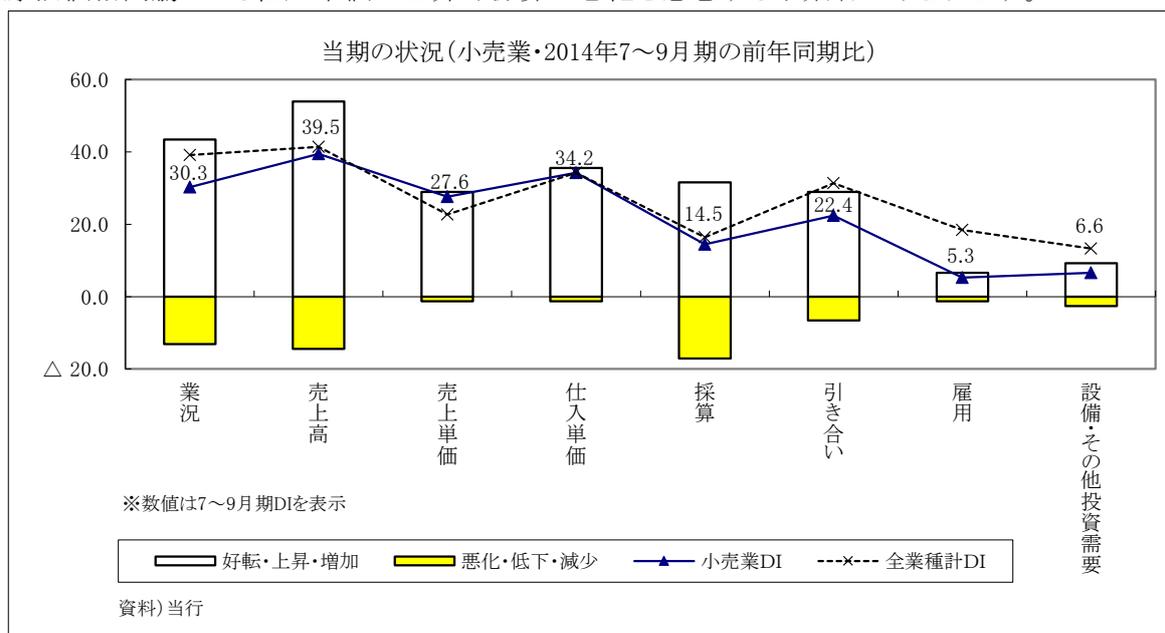
来期の見通し【卸売業】DIは19.4となり、全体としては**業況改善の動き**がみられます。建設資材関連では引き続き公共・民間工事の受注増加により売上高や引き合いの増加が見込まれます。食料品関連の事業者も年末商戦などにより売上高が堅調に推移するとみられます。一方、一部では円安の影響による仕入単価の上昇や採算の悪化を懸念する事業者もみられます。



6. 小売業

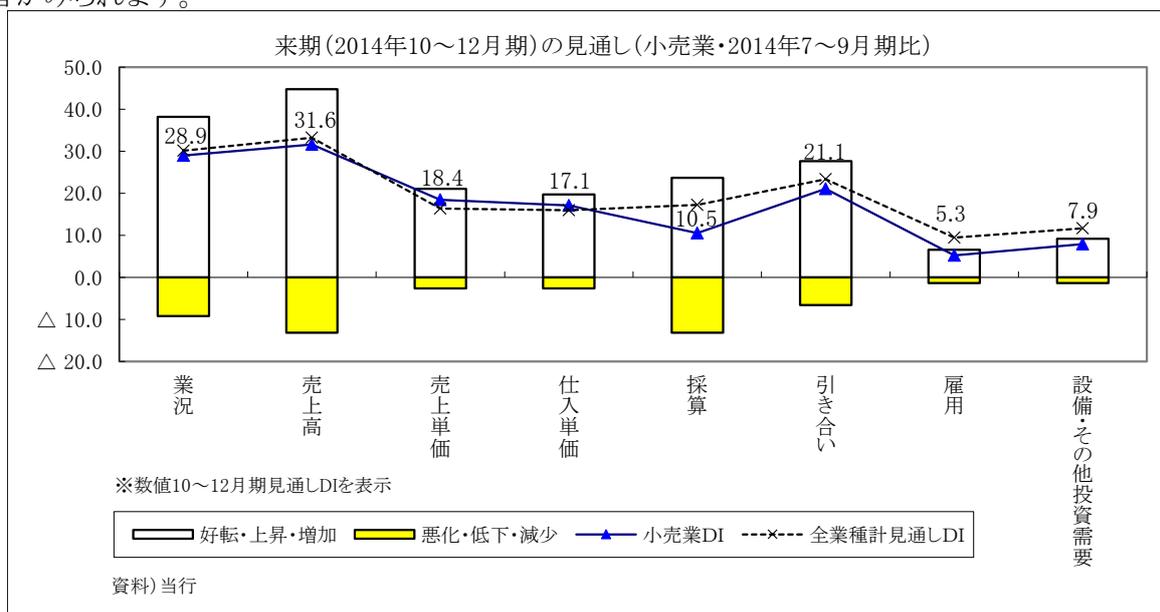
a. 当期の状況 (2014年7～9月期の前年同期比)

【小売業】DIは30.3となり、全体としては業況改善の動きがみられます。観光土産品販売、ガソリン販売では夏場の観光需要やレンタカー利用の増加により、売上高や引き合いが増加しています。建設資材関連では公共工事の受注増加による需要の高まりから売上高が増加しています。一方、自動車販売の一部では消費税増税に伴う駆け込み需要の反動減がみられます。またガソリン販売では原油価格高騰による仕入単価の上昇や採算の悪化を懸念する事業者がみられます。



b. 来期の見通し (2014年10～12月期の2014年7～9月期比)

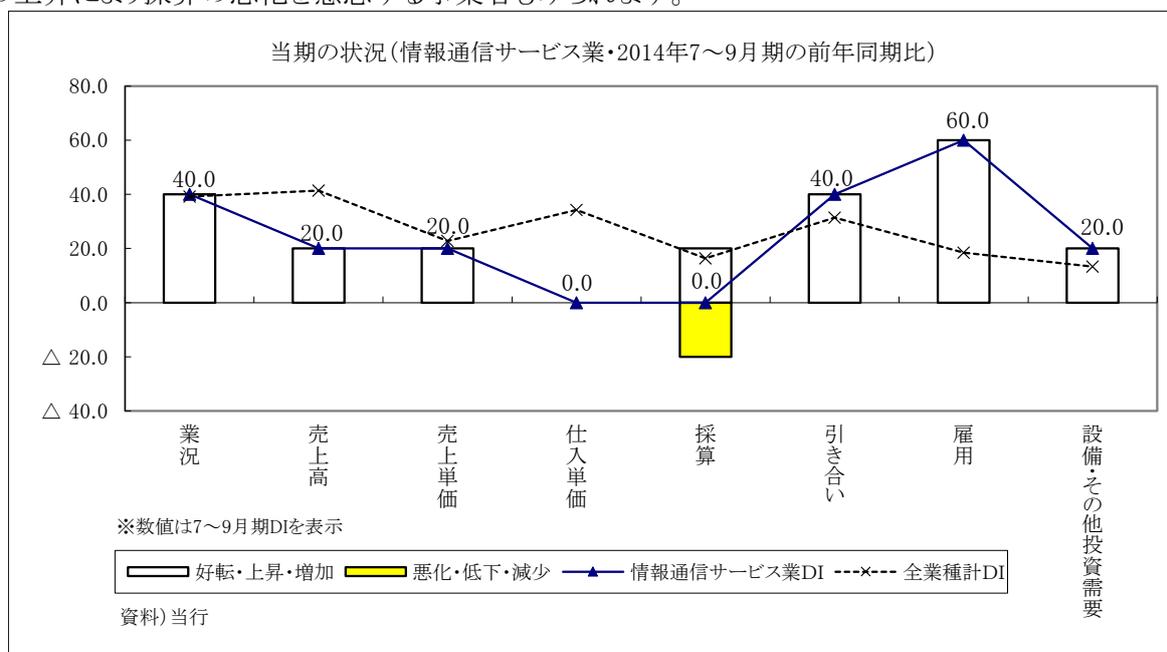
来期の見通し【小売業】DIは28.9となり、全体としては業況改善の動きがみられます。スーパー、百貨店、自動車販売では年末商戦に伴う需要の増加を見込んでおり、売上高の増加が期待されます。ガソリン販売では引き続き、原油価格高騰による仕入単価の上昇や採算の悪化を懸念する事業者がみられます。



7. 情報通信サービス業

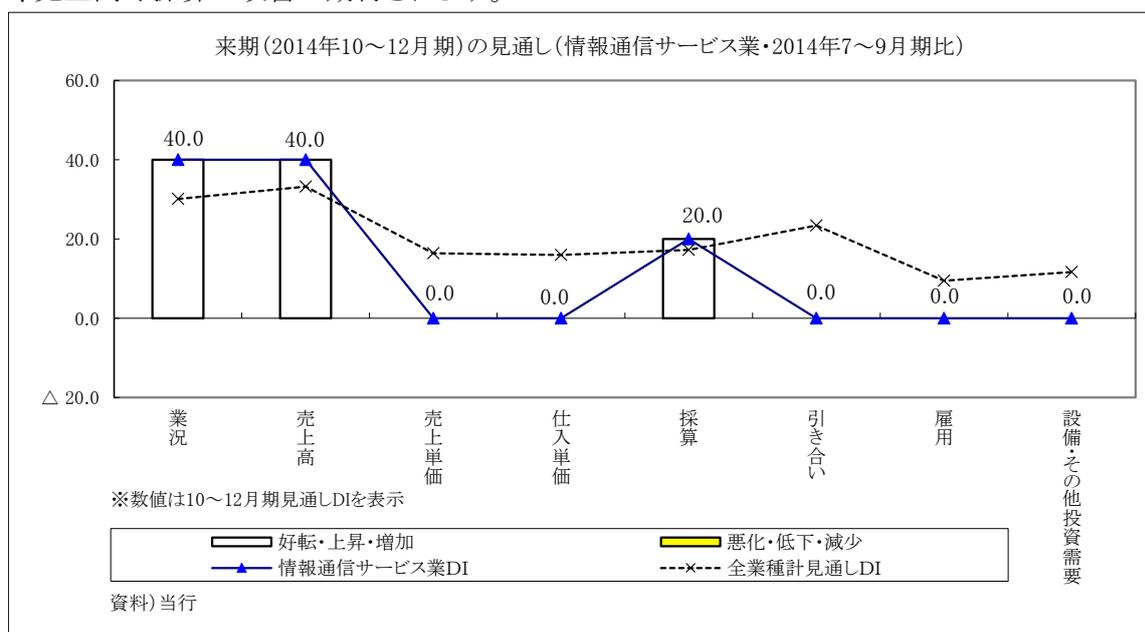
a. 当期の状況 (2014年7～9月期の前年同期比)

【情報通信サービス業】DIは 40.0 となり、全体としては業況改善の動きがみられます。防災システム、ソフトウェア開発関連の事業者では雇用の増加がみられます。また、求人募集を中心とした広告需要の増加も一部でみられ、売上高や引き合いが増加しています。一方、雇用の増加に伴う人件費の上昇により採算の悪化を懸念する事業者もみられます。



b. 来期の見通し (2014年10～12月期の2014年7～9月期比)

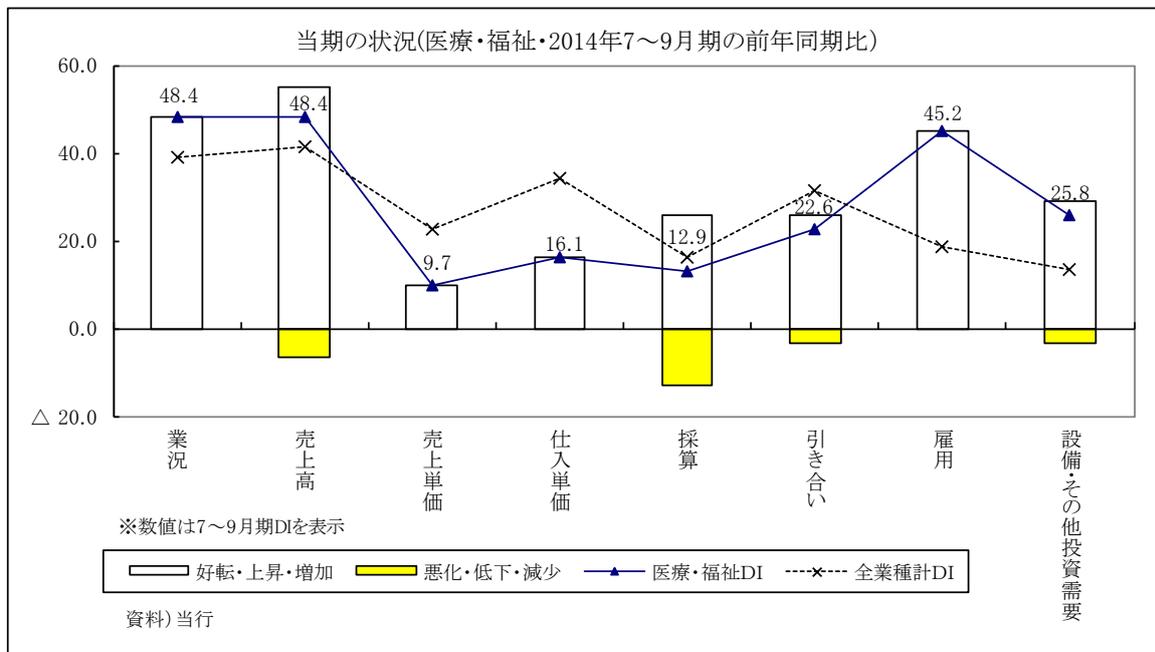
来期の見通し【情報通信サービス業】DIは 40.0 となり、全体としては業況改善の動きがみられます。ソフトウェア開発、求人募集を中心とした広告需要は引き続き、受注が堅調に推移することが見込まれ、売上高や採算の改善が期待されます。



8. 医療・福祉

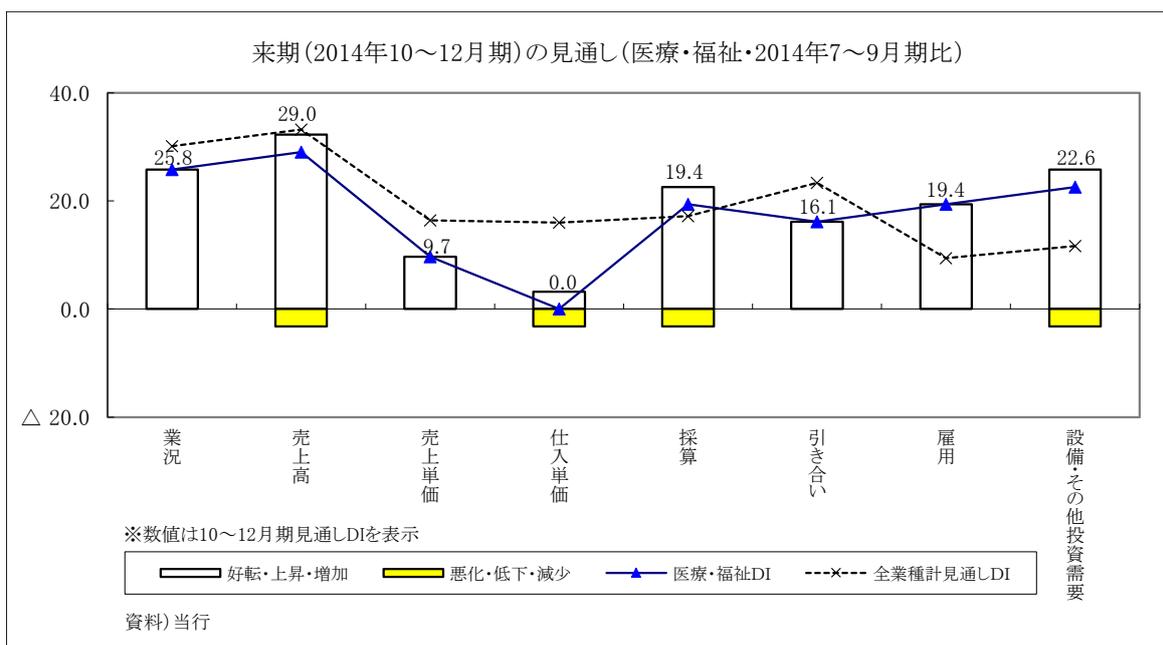
a. 当期の状況 (2014年7～9月期の前年同期比)

【医療・福祉】DIは48.4となり、全体としては業況改善の動きがみられ、医療施設の経営環境は引き続き堅調に推移しています。新規施設稼働や改装効果による入所者の増加などから売上高や雇用が増加しています。一方、人件費の上昇による採算の悪化を懸念する事業者もみられます。



b. 来期の見通し (2014年10～12月期の2014年7～9月期比)

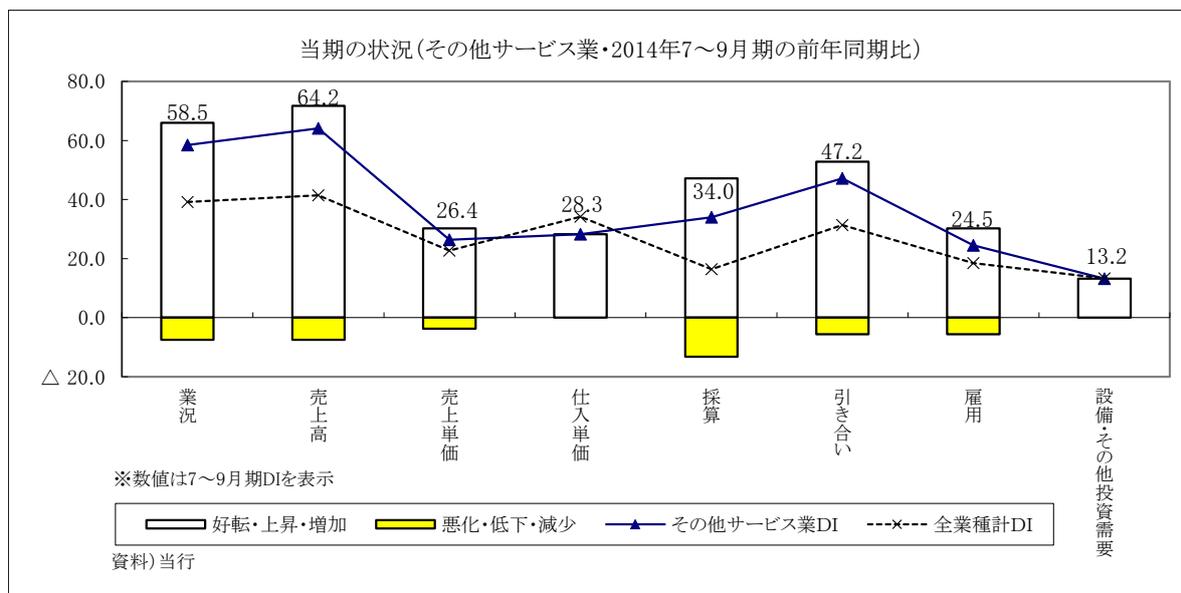
来期の見通し【医療・福祉】DIは25.8となり、全体としては引き続き業況改善の動きがみられ、医療施設の経営環境は堅調に推移することが見込まれます。新規施設の稼働率増加や医療サービス拡充(訪問介護)が見込まれることから、売上高、採算の改善も期待されます。



9.その他サービス業(宿泊、飲食、ゴルフ場、遊戯場、結婚式場、教育関連等)

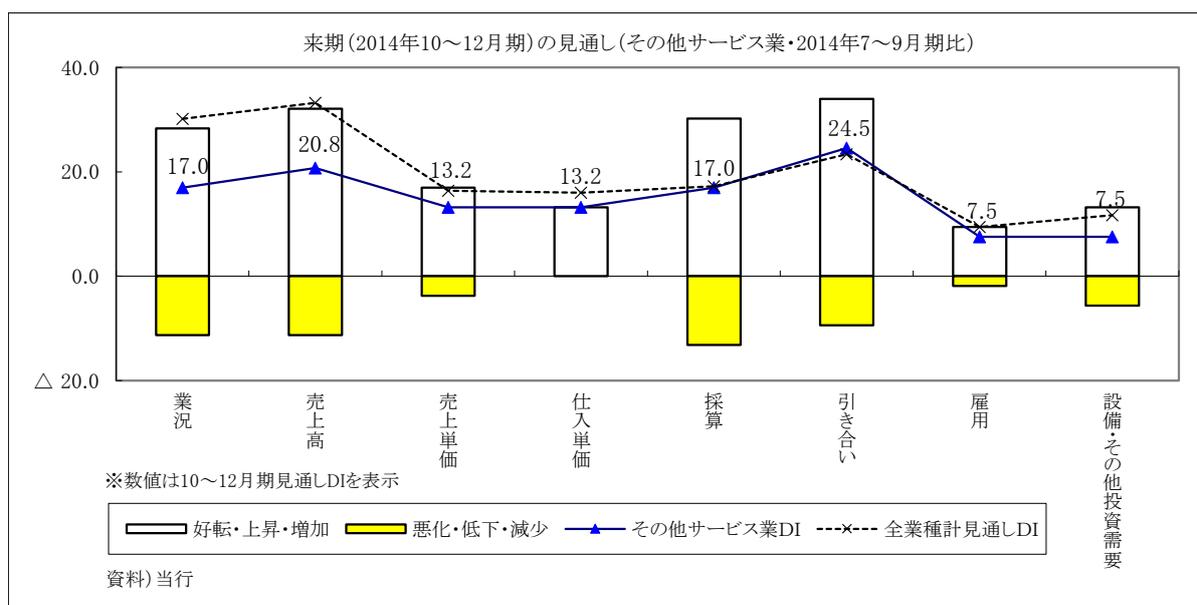
a.当期の状況(2014年7～9月期の前年同期比)

【その他サービス業】DIは 58.5 となり、全体としては**業況改善の動き**がみられます。宿泊業、飲食業では観光のトップシーズンによる観光需要の増加などにより売上高、採算、引き合いの増加がみられます。また、飲食業・娯楽等では新規出店等による売上高の増加もみられます。



b.来期の見通し(2014年10～12月期の2014年7～9月期比)

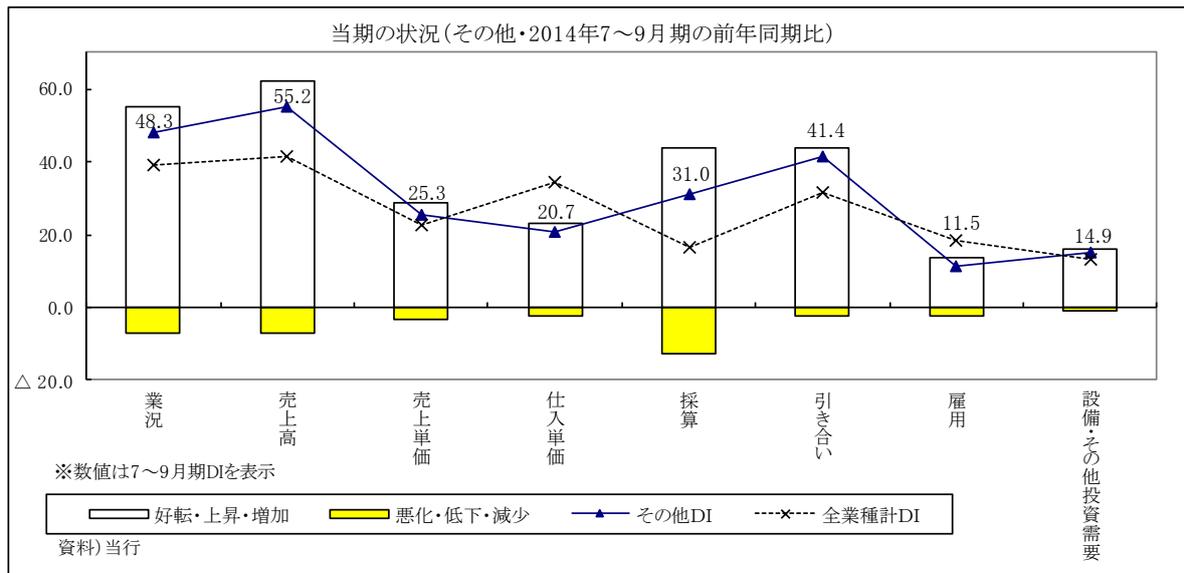
来期の見通し【その他サービス業】DIは 17.0 となり、全体としては**業況改善の動き**がみられます。観光のトップシーズン終了に伴い、観光需要の反動減が懸念されるものの、飲食業などにおいて新規出店が見込まれることから、売上高、採算、引き合いの増加が期待されます。



10.その他(不動産、運輸、測量・設計コンサル等)

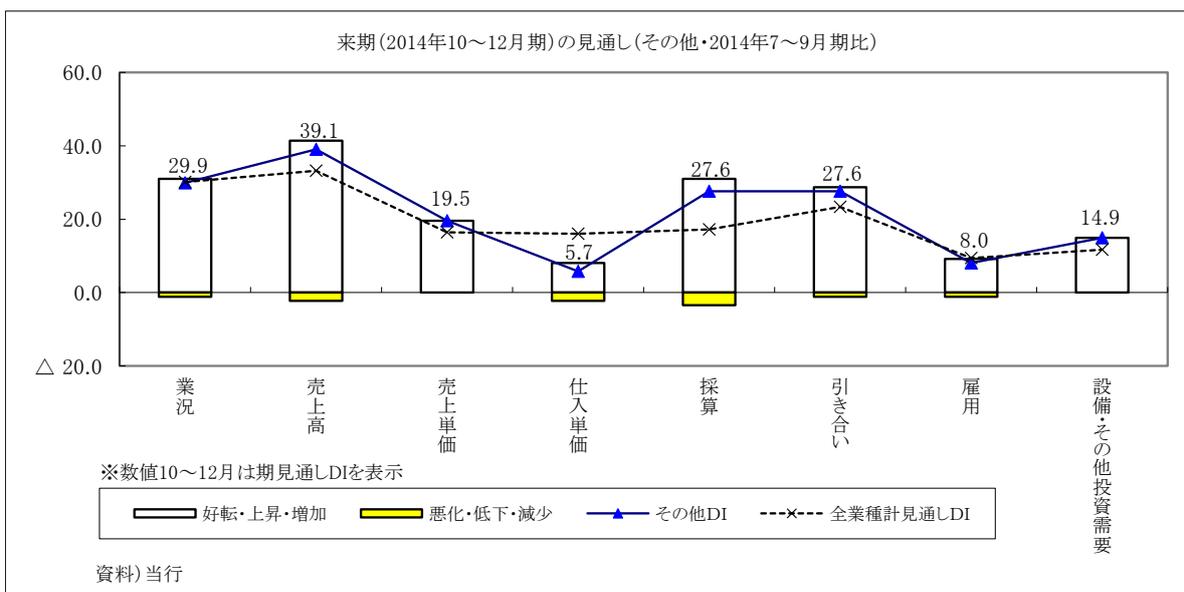
a.当期の状況(2014年7~9月期の前年同期比)

【その他】DIは 48.3 となり、全体としては**業況改善の動き**がみられます。測量・設計業・重機リース業・不動産業(販売・管理)では、公共・民間工事の受注増加などによる建設関連(土木業・建築業)の好調を受け、売上高や引き合いの増加がみられます。また、運輸業(観光バス・フェリー運航)では観光のトップシーズンによる観光需要の増加により、売上高や採算の改善がみられます。



b.来期の見通し(2014年10~12月期の2014年7~9月期比)

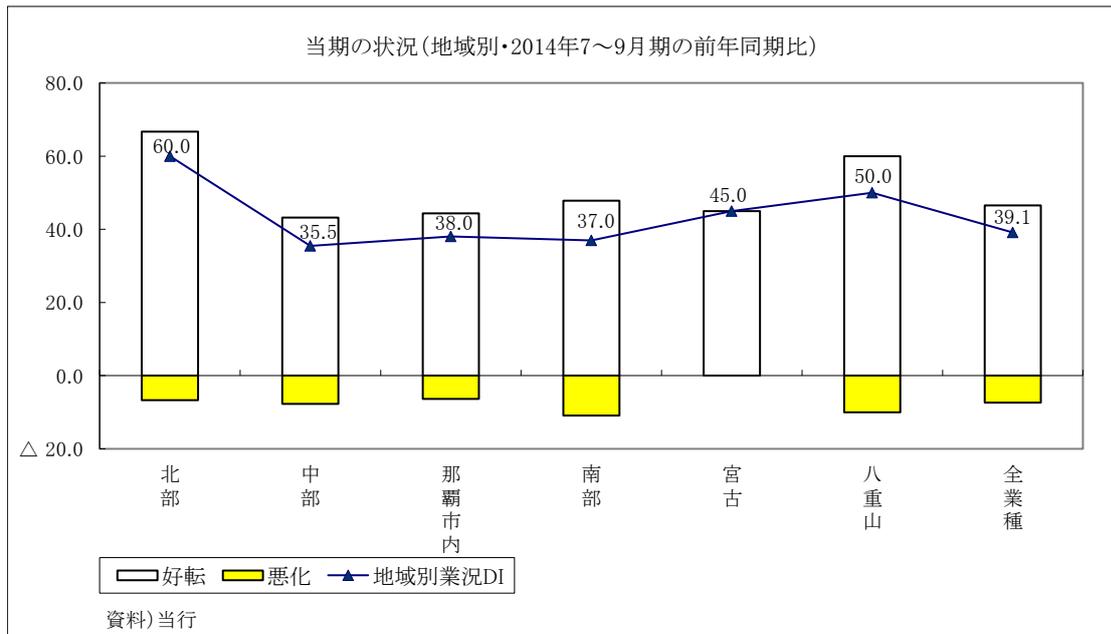
来期の見通し【その他】DIは 29.9 となり、全体としては**業況改善の動き**がみられます。測量・設計業・重機リース業は引き続き、公共・民間工事の受注増加により売上高の増加が見込まれます。また、不動産業(販売・管理)も管理物件の増加などにより売上高、引き合いの増加が期待されます。



Ⅲ. 調査結果(2) ～地域別の業況DI～

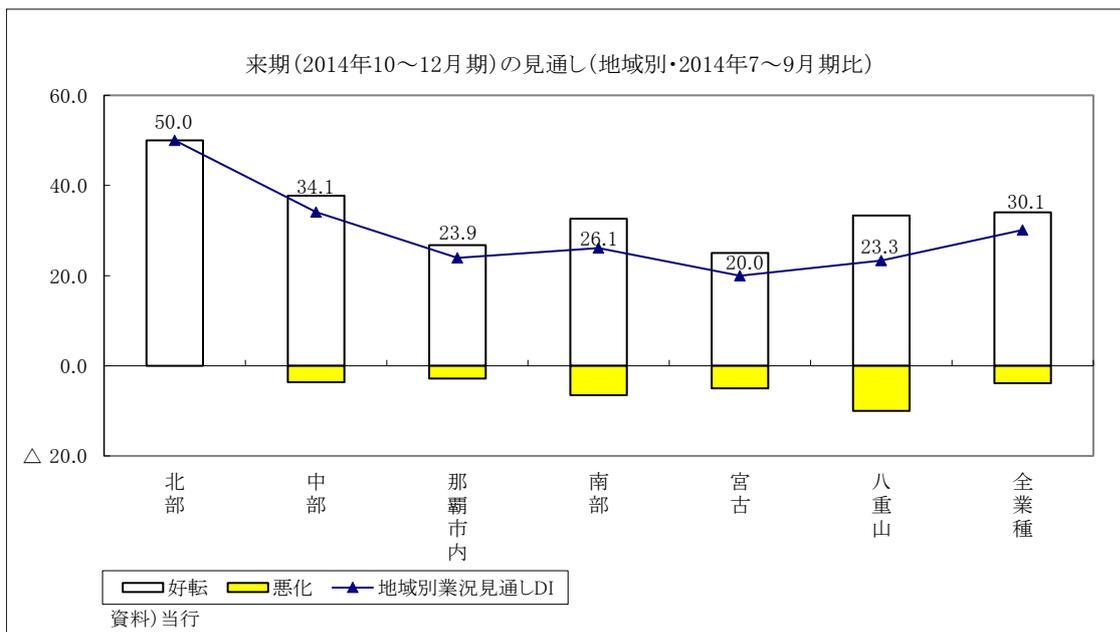
1. 当期の状況(2014年7～9月期の前年同期比)

地域別業況DIは北部地区(60.0)をはじめ、全ての地域で業況改善の動きとなりました。建設関連(土木業・建築業)や不動産業(販売・管理)、測量・設計業では公共・民間工事の受注増加の影響による業況改善の動きがみられます。また、八重山地区では、新石垣空港開港効果などから、観光関連(宿泊・飲食・小売・運輸など)において業況改善の動きがみられます。



2. 来期の見通し(2014年10～12月期の2014年7～9月期比)

来期の業況見通しDIは、引き続き全ての地域で業況改善の動きが期待されます。建設関連や不動産関連では公共・民間工事が堅調に推移することが予想されます。修学旅行シーズンや年末商戦など様々な業種において需要が見込まれることから、業況の改善が期待されます。



IV.まとめ

【当期業況DI】

- ① 当期（2014年7～9月期）の業況DIは、39.1ポイント（前年同期比）となり、業況改善の動きとなりました。
- ② 観光関連（飲食業、宿泊業、旅行代理店業）では、観光のトップシーズンにより入域観光客数が好調に推移（7月＝12.0%増、8月＝3.6%増：いずれも前年同月比）していることなどから売上高や引き合いが増加しており、全体としては業況改善の動きがみられます。
- ③ 建設関連（土木業、建築業）では、公共工事の受注増加、消費税増税に伴う駆け込み需要で増加した民間工事の受注案件などにより、業況は好転しています。また、不動産業（販売・管理）や測量・設計業においても業況は好転しています。一方、一部では建設資材高騰や人件費の上昇により、採算の悪化を懸念する事業者もみられます。
- ④ 小売業では、観光土産品販売、ガソリン販売において夏場の観光需要やレンタカー利用の増加により、売上高や引き合いが増加しています。建設資材関連は公共工事の受注増加による需要の高まりから売上高が増加しています。一方、自動車販売の一部では消費税増税に伴う駆け込み需要の反動減がみられます。
- ⑤ 卸売業では、建設資材関連が公共・民間工事の受注増加により、売上高や引き合いが増加しています。また、食料品・観光土産品関連も夏場の観光需要により売上高が増加しています。一方、一部では円安の影響による仕入単価の上昇や、採算の悪化を懸念する事業者もみられます。

【来期の見通しDI】

- ① 来期（2014年10～12月期）の見通しDIは、30.1ポイント（2014年7～9月期比）となり、当期より改善されることが期待されます。
- ② 観光関連では、観光のトップシーズン終了に伴い、需要の反動減が懸念されるものの、新石垣空港開港効果や外国人観光客の増加などにより、引き続き観光需要が堅調に推移することが期待されます。
- ③ 建設関連では、引き続き公共・民間工事の受注増加が期待されています。一方で、建設資材高騰や人件費の上昇などから、採算の悪化を懸念する事業者もみられます。
- ④ 小売業では、スーパー、百貨店、自動車販売において年末商戦に伴う需要の増加を見込んでおり、売上高の増加が期待されます。ガソリン販売では引き続き、原油価格高騰による仕入単価の上昇や採算の悪化を懸念する事業者がみられます。

